



久留米大学
比較文化研究所年報
第14号

2020

比較文化研究所年報

第14号

2020

目次

はじめに	1
比較文化研究所の概要	2
活動報告(2020年度)	
1. 研究部会報告	
(1) 欧州研究部会	5
(2) 外国語教育研究部会	5
(3) 健康文化研究部会	6
(4) 地域博物館研究部会	7
(5) 福祉コミュニティ研究部会	9
(6) 文化財保存科学研究部会	10
(7) 民事法研究部会	11
(8) 地域社会経済研究部会	11
(9) 地域精神保健福祉研究部会	13
(10) 心理教育研究部会	14
(11) 会計専門職研究部会	15
(12) 日本アジア比較文化研究部会	17
(13) 歴史科学研究部会	19
(14) 筑後川流域圏研究部会	21
(15) イスラーム研究部会	24
(16) 地中海地域研究部会	25
2. 研究員発表会	27
3. 日誌(運営会議、研究所会議等)	29
施設・設備	30

はじめに

比較文化研究所長
原口 雅浩

2020年度の活動報告として、久留米大学比較文化研究所年報第14号をお届けします。

本研究所は文系大学院の設置母体として出発し、主に比較文化研究科設置に貢献するとともに教育・研究をも担ってきました。その後、2001年から専門研究部会が設けられ、当初の5部会から16の研究部会にまで増え、現在の活動に至っています。それぞれの研究部会では、調査研究、そして地域にも開放された公開講座、シンポジウムやセミナー等の様々な研究活動を行っているところです。

これまでも比較文化研究所としての学際的・総合的研究活動の推進と、成果の社会還元を続けてきましたが、今後も一層の共同研究の進展は必要であると考えられます。

本研究所の活動が、所員や地域の方々を始め様々な関係者に支えられてきたことに感謝申し上げ、今後とも関係各位の皆様のご指導、ご支援を頂きたく宜しくお願い致します。

比較文化研究所の概要

比較文化研究所は、1987年に久留米大学付属の研究所として創設されました。

研究所の目的は、「新しい学際的統合を基本理念として、文化の構造と機能に焦点を当てた総合的比較文化研究を行うこと」（比較文化研究所規程）であり、学問領域を超えて学際的な研究の推進を図ることを目指すものです。

設立当初は、文系学際大学院「比較文化研究科」を設置するための母体として、大学直属の研究所として設置されました。大学院比較文化研究科の研究機能を受け持つという性格上、専任所員及び大学院比較文化研究科後期博士課程の教員のみによって組織されており、研究所長もまた、比較文化研究科委員長（現在の比較文化研究科長）が兼任しておりました。

その後2001年において、研究所の組織が改正され、比較文化研究所に、大学での研究成果を地域や社会へ還元するという役割が加わりました。それに伴って、組織も変更され、比較文化研究所所員も大学院担当教員を中心にその他の希望する専任教員にまでその枠が広がられました。

研究所では、多くの研究部会を組織しそれぞれのテーマで活発な研究活動を行うとともにその成果の公開に努めています。

ほかに研究所としての活動として、次のような研究プロジェクトを実施してきました。

まず、2006年度より、研究成果の地元地域への還元を意図して地元である筑後川流域圏を対象地域とした研究を行うというプロジェクト研究「筑後川流域圏の総合研究」を開始しました。2006年度～2007年度においては、大川地域、2008年度～2009年度においては旧三潯郡、2010年度～2011年度においては旧久留米市、2012年度～2013年度においては、うきは市および朝倉市、2014年度からは日田地区を実施し、それぞれの地域の『研究報告書』を発行してまいりました。

なお、以上の研究プロジェクトは2015年度をもって終了しています。

いずれの研究事業も、比較文化研究所の研究成果の地域への還元、さらには久留米大学と地域との連携強化を図るものであります。

2020年度においては次のような組織・体制となっております。

組織体制

所 長	原口 雅浩 (2021. 4. 1～2023. 3. 31)
専任所員 (任期制)	Ahmed M F M Rahmy (教授) (2017. 4. 1～2022. 3. 31)
所 員	2020年度：83名(専任所員1名含む) 大学院比較文化研究科後期博士課程の教員27名 大学院心理学研究科後期博士課程の教員7名 任意に加入する助教以上の教員48名
特別研究員	2020年度：3名
研究部会研究協力者	8名 (文化財保存科学研究部会7名、筑後川流域圏研究部会1名)
研 究 員	2020年度：19名

専任所員は、講師以上の教員で、任期制をとっています。

所員は、専任所員、大学院比較文化研究科後期博士課程の教員のほか、大学院心理学研究科後期博士課程の教員および任意に加入する助教以上の教員により構成されています。

研究体制としては、「研究部会」を置き、各研究部会長が研究活動の中心として研究活動をリードしています。2020年度における研究部会は以下の通りです。

- 1) 欧州研究部会 (部会長 児玉昌己教授)

- 2) 外国語教育研究部会 (部会長 李 偉教授)
- 3) 健康文化研究部会 (部会長 満園良一教授)
- 4) 地域博物館研究部会 (部会長 吉田洋一教授)
- 5) 福祉コミュニティ研究部会 (部会長 瀧崎裕子教授)
- 6) 文化財保存科学研究部会 (部会長 原口雅浩教授)
- 7) 民事法研究部会 (部会長 石川真人教授)
- 8) 地域社会経済研究部会 (部会長 大矢野栄次教授)
- 9) 地域精神保健福祉研究部会 (部会長 辻丸秀策教授)
- 10) 心理教育研究部会 (部会長 園田直子教授)
- 11) 会計専門職研究部会 (部会長 杉野博貴教授)
- 12) 日本・アジア比較文化研究部会 (部会長 アハマド・ラハミー教授)
- 13) 歴史科学研究部会 (部会長 福山裕夫教授)
- 14) 筑後川流域圏研究部会 (部会長 浅見良露教授)
- 15) イスラーム研究部会 (部会長 佐々木拓雄教授)
- 16) 地中海地域研究部会 (部会長 池口守教授)

研究員は、後期博士課程を満期退学した者で、その後も研究を続け博士学位論文の作成を目指す者等が含まれます。指導教員の指導の下、各自の専門分野の研究を行っています。

<審議>

比較文化研究所には、主として次の2つの審議組織があります。

研究所会議：所員全員からなる組織で、規程、運営方針、予算、人事等に関する審議を行います。

運営会議：所長、専任所員、研究部会長からなる組織で、16名の委員で構成されています。研究所の運営に関する中心的な審議機関となります。

また、学部等との連絡調整を図り、研究所の円滑な運営を期するため、研究所協議会が置かれています。協議会は、所長、副学長、学部長、大学院研究科長、専任所員の教授を含む所員の教授5名によって組織されています。

<研究成果の公表>

『比較文化研究』

研究所の紀要として原則として年1回発行しています。1987年に『比較文化研究所紀要』第1輯を発行し、1993年発行の第14輯からは『比較文化研究』と改称しています。

また、2009年度より査読制をとっております。

第56・57輯の主な内容は、以下の通りです。

『比較文化研究』第56輯(2020年11月発行)

国際シンポジウム「非西欧社会の近代化再考：エジプト（アラブ）と日本（東アジア）の場合Ⅱ」の報告集

『比較文化研究』第57輯(2021年3月発行)

[研究ノート] S.M.D.T ランプクピティヤ

日本語母語話者と非母語話者チームによる日本語教室：参加者の気づきから
見えてくる多文化共生

[研究ノート] 池田 博章

中学生におけるQOLと内面化・外面化問題行動(SDQ)の縦断的研究

[コラム] アハマド ラハミー
アジア・アラブと日本の交流史

『比較文化研究所年報』（本冊）

比較文化研究所における1年間の研究成果の報告および学外への周知を目的に、2008年度(2007年度の報告)より発行を開始しました。

各研究部会・研究員の研究成果の公表

各研究部会などにおいても出版物等による研究成果の発表が行われています。

詳細につきましては、各研究部会等の報告(後述)をご参照ください。

また、研究員につきましては、2006年度から年度末に研究所セミナー(活動報告会・交流会)を開催し、その年度における研究成果の発表が行われています。

なお、2020年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の現状を鑑み、昨年同様、開催しないこととしました。研究員研究発表会についても開催しないこととしました。ただし、次年度の研究員継続にあたっては、発表を必須条件としているため、「抄録」原稿の提出をもって、これに代えることとしました。

活動報告

1. 研究部会報告

(1) 欧州研究部会

部会長 児玉 昌己

欧州部会は外部後援者を招いた研究活動をここ15年余にわたり実施してきた。

2020年度は、コロナ禍の直撃を受け、外部講師の公演予定をすべてキャンセルせざるを得なくなり、活動の休止状況に置かれてしまった。

九死に至る状況が、外部的要因ということで、会長の手を超えたものであり、遺憾極まりないことであつた。

2021年度も厳しい状況にある。

(2) 外国語教育研究部会

部会長 李 偉

外国語教育研究部会は、外国語教育のバックグラウンドの人間教育をモットに、毎年外国語語学、文学と教育のみならず、その周辺分野の異文化コミュニケーション、異文化理解、人間関係など幅広い課題を取り上げ、専門的な研究者を講師に、教員及び地域住民を対象にした講演会を実施している。2020年度は、特別企画として久留米大学外国語教育研究所と共催し、「第3回ヒューマンライブラリー@久留米大学」を開催した。

タイトル：第3回ヒューマンライブラリー@久留米大学

日時：2020年12月13日 日曜日 13:00～15:00

場所：ZOOM オンライン会議室

内容：

本活動はヒューマンライブラリー開催により、それに参加する地域市民および学生の啓発・教育を行うと同時に、その効果を研究することを目的とする。ヒューマンライブラリーとは人を本になぞらえ、図書館で本を読むように、様々な人と積極的に対話し、理解を深めることを目的とした取り組みである。

今回はコロナ禍にともない、ZOOMを用いたオンライン開催となった。「がんサバイバー」さん、「語り部」さん、「留学生」さん、「水俣熊本」さんなど10名を「本」として招聘した。30分の特別講演を全員で聴いたのち、5つの「閲覧室」に分かれて小グループで対話した。各閲覧室には「本」2冊を「配架」し、30分を1セッションとして、2セッションを行った。参加者は延べ人数で48名であった。

今回はオンライン開催であったため地域のボランティア団体や少数者や久留米大学学生のみならず、福島や水俣、さらにはベトナムから「本」として参加してもらうことができた。また、「読者」に関して全国からの参加があつた。地域と世界を結ぶ「グローバル」な連携ができたといえる。

アンケート調査より、「本」のエンパワーメントと「読者」の多様性に向けた意識変革に貢献できたことが確認できた。

(3) 健康文化部会

部会長 鍋谷 照

本部会は、久留米・筑後地区の健康・スポーツ科学データの集約化について研究活動を進めている。この取り組みは2016年度から自治体や県内企業や関連団体などと協議を進め、運動能力測定結果のデータベース化及び個人へのフィードバックを目指しているものである。しかしながら、個人情報の扱いなど解決せねばならない問題があり、データベース化の取り組みは進んでいない。

取り組んでいる活動の中で継続的に行っている活動として就学前の子どもの運動能力測定がある。この取り組みは、2017年度からデータ収集に向け検討しており、2018年度に体力テストの実施にこぎつけ、以降、継続的に測定を行って現在に至っている。測定項目においても、当初、取り掛かった運動能力測定のみならず、足型測定、生活調査に至るまで調査領域を拡充し、多角的に就学前の子どもの状況を把握することを試みている。

継続的にデータを確認していくことの価値のみならず、人間健康学部の学生においても、就学前の子どもの運動能力測定の場に補助学生としてかかわることで、総合子ども学科、スポーツ医科学科の両学科の学生にとって貴重な体験の場となっている。

しかし、2020年度においては、感染症の影響により、例年のように補助学生と共に測定園に出向くことが出来なかった。そのため、本部会メンバー教員のみが出向き、測定園の教員の協力を得て、日程を2日間に分割して行うこととなった。

2020年度の測定の概要は以下の通りである。

測定日時：2021年3月8日（月）および3月12日（金）10時00分～12時30分

対象：広川幼稚園・園児（年少、年中、年長の計）236名

測定項目：25m走・立ち幅跳び・ボール投げ・捕球・バランス・ウォーク・テスト(BWT)の5種目

上記の測定において得られたデータ処理はまだであるが、これまでの測定結果は、日本発育発達学会(2020.3.13-14)においてオンラインで発表された。発表は以下の3演題である。

学会発表(1)

幼児の平衡系能力・移動系能力・操作系能力の関わり

野田耕(久留米大学)、鍋谷照(久留米大学)、柴田英俊(からだ環境総研)、満園良一(久留米大学)

学会発表(2)

幼児の平衡系能力と足跡の関わり

鍋谷照(久留米大学)、柴田英俊(からだ環境総研)、野田耕(久留米大学)、満園良一(久留米大学)

学会発表(3)

幼児の浮趾と扁平度の関わり

柴田英俊(からだ環境総研)、鍋谷照(久留米大学)、野田耕(久留米大学)、満園良一(久留米大学)

そして、これらの学会発表の内容をもとに、「バランス・ウォーク・テストを用いた幼児の動的平衡能力測定の試み」と題した論文として投稿中である。

今後、足型測定の結果や生活調査の結果を運動能力測定の結果と絡めて更なる分析を行い、学内外に報告していく予定である。

(4) 地域博物館研究部会

部会長 吉田 洋一

運営（研究）テーマ

地域博物館研究部会は、筑後川水系を中心に形成された地理的環境のもと、筑後川流域の将来計画を策定するうえでの大学組織の役割として、周辺自治体や市民と共に協力・連携し、歴史的環境を保持しながら地域文化の次世代への継承を目的としている。

運営（研究）計画

- ①九州管内を中心とした地域博物館の現地調査・視察
- ②筑後川水域関連資料の保存・収集（学生への還元）
- ③久留米大学関連資料の保存・収集（学生への還元）

2020 年度の活動報告

①史料調査

2016 年度より御井図書館所蔵の久留米藩政史料（仮）の調査を継続中である（詳細は『久留米大学比較文化研究所年報第 10 号』2017 年、参照）。

②資料集刊行

小澤太郎・吉田洋一編『大津遠太記録（おおつえんだきろく）』

（小澤氏解題より抜粋）

本書で紹介する「大津遠太記録」（以下、「記録」と呼ぶ）は、古記録のコピー冊子である。複写が等倍とすれば、縦 12.8 cm×横 18.5 cm。形態は横丁で、丁数は 117 丁である。

本史料を収集した古賀幸雄氏は郷土史家であり、大正九年（1920）に久留米市国分町に生まれた。氏は昭和十七年（1942）、京都大学経済学部（日本経済史専攻）を卒業。郷土史研究を開始したのは昭和四十年代前半ころである。昭和四十三年（1968）に筑後地区郷土研究会の活動に参画、同四十六年（1971）久留米郷土研究会を創設し、同四十八年（1973）より同研究会会長を務めた。同五十一年（1976）には久留米市史編さん委員を委嘱され、同六十一年（1986）より同編さん委員長に就任した。平成十八年（2006）に逝去するまでの間、久留米市功労者、福岡県教育文化功労者、久留米市文化賞など多くの表彰を受けた。同二十一年（2009）、古賀氏が生前に収集された郷土資料に関する書籍や複写資料など約千点が「古賀幸雄資料」として久留米市に寄贈されている。

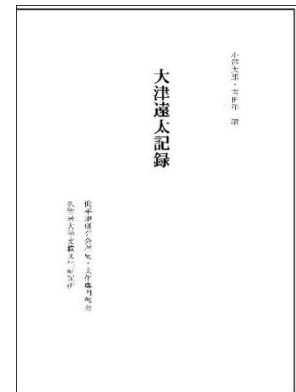
「記録」は、久留米藩御船手方大津遠太の年譜である。大津は、天保二年（1831）五月一日、御船手方の小船頭大木兵太夫の次男として、筑後川に面する洗切に生まれた。天保十二年（1841）には、同じく御船手方の大津紋七の養嗣子となった。その後、藩が購入した洋式船の雄飛丸や千歳丸などに乗務、藩海軍蒸気船の士官として活躍したことで知られる。廃藩置県後は教育界に身を置き、三潞県立久留米師範学校などで洋算を教え、地域における近代教育の草創に携わった。

同書では、天保年間（1830～43）に藩校明善堂での修学事情から、嘉永 6 年（1853）に「小船頭並」として出仕後、明治 5 年（1872）の最後の航海（蒸気船千歳丸）までを収載する。「記録」は、幕末の久留米藩が和船から蒸気船へ転換していく経緯、操船術伝授に関する佐賀藩との関係などを検証する上で好史料である。

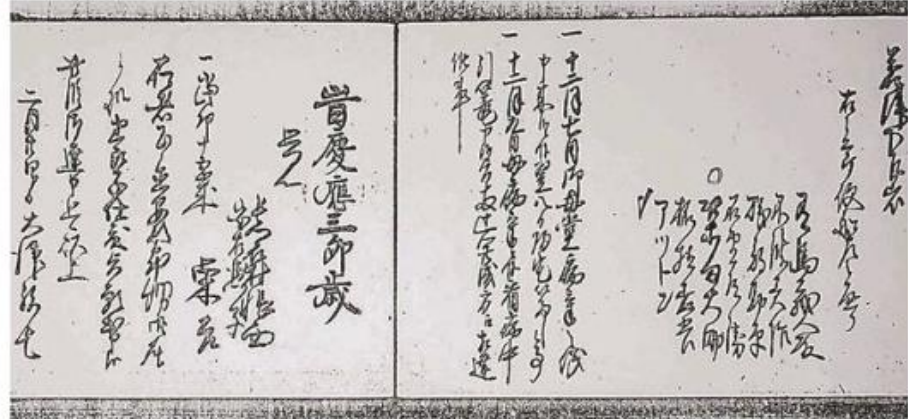
2021 年度活動計画

筑後川流域圏及び有明海沿岸地域を中心とした現地調査や史料の探求・公開、外部講演などの成果を、学生や市民へ還元する。

西日本新聞（筑後版）2021 年（令和 3 年）5 月 16 日



久留米藩海軍の中心人物—— 大津遠太の記録 冊子に



久留米市所蔵の史料に、幕末から明治期にかけて久留米藩海軍の中心的役割を担った大津遠太（1831〜83）の記録がある。和船

市文化財保護課の小沢さん

から蒸気船への転換期の動向を伝える内容で、市文化財保護課の小沢太郎さんがこのほど、研究に活用してもらおうと冊子にした。内

陸に位置する久留米藩が筑後川を利用し、国内有数の海軍力を誇ったことが分かるという。

大津は、藩の海上輸送を取り仕切る集団「御船手方」の船頭や、藩海軍士官を務めた。大津が残した記録には、和船の操船修業や蒸気船購入の経緯、蒸気船「千歳丸」の最終航海の様子などが記されている。原本は所在不明で、郷土史家の古賀幸雄さんによる複写が市に寄贈された。

久留米藩の海軍記録には、同じく士官だった梅野多喜蔵の日記類があるが、1945年の久留米空襲で焼失し、引用された一部の

内容しか分からない。大津遠太記録の史料価値は高いものの、ほとんど研究に活用されていないという。

久留米藩は佐賀藩から蒸気船の運用技術を学び、筑後川下流の若津（現在の大川市）に軍港を築いた。近くには世界遺産である佐賀藩の三重津海軍所がある。小沢さんは「大津の記録は佐賀藩の海軍研究にも役立つはずだ」と話す。

冊子（非売品）は久留米大の吉田洋一教授が監修、同大比較文化研究所と低平地研究会（佐賀市）が出版した。久留米・佐賀地域の図書館や研究機関に寄贈する。

① 古賀幸雄さんが書き写した「大津遠太記録」（冊子から）
② 冊子になった「大津遠太記録」



（野村大輔）

(5) 福祉コミュニティ研究部会

部会長 濱崎裕子

1 はじめに

年次計画として、子ども食堂活動を通じた福祉コミュニティ形成の研究を予定していたが、新型コロナウイルス感染の影響で、ほとんどの子ども食堂は閉鎖された。しかし、そのような中でも活動の形を変えて、コロナ禍における子ども・家庭の課題や地域のコミュニティづくりを実践してきた子ども食堂の調査を通して、子ども食堂のもつ新たな意義や福祉機能の多様化を見いだすことができた。

2 コロナ禍での活動実践内容

小学校が休校になったときに、給食がなく、親の勤務のために昼食のない子どもの存在を意識し、子ども食堂を毎日のように開いたのが、安武子ども食堂と宮の陣の「ひこうき雲」である。学校が再開された後も、3密を避けるためにほとんどの子ども食堂は閉鎖されたままであったが、この2つの子ども食堂は弁当配布や食材を配る（フードパントリー）という形で活動継続している。

1) 安武子ども食堂

月に2回の開催で、弁当を予約し、子どもや親子連れがコミュニティセンターに受け取りに来る形で継続した。学童保育等には配達も行っている。1回に35食前後の申し込みであったが、次第に増加し60食を超える状況である。子どものみを対象とし1食100円である。受け取りに来たときに名前を確認し、言葉を交わして子どもの状況把握をしている。

当地域はもともとコミュニティ活動が盛んで、いろいろな活動主体とネットワークを組んでいる。特にコロナ禍においては地域内にある「フードバンクくるめ」との連携が活動基盤を強化するものとなっている。弁当を作るための食材のみならず、コロナ禍で不要になった観光土産菓子やグッズがフードバンクに集まり、それらも弁当とともに配っていた。したがって、持ち帰る弁当袋は多様な食べ物が入っており、100円という料金以上に内容も子どもたちの楽しみも豊かにするものであった。

2) ひこうき雲

休校中の昼食提供をした後、学校再開後は月に3回の弁当配布をしている。最初は、プラスチックの弁当箱に詰めていたが、環境保全と経費の面からタッパーウェアを各自が持参して、トレーに並べ、そこに料理を詰めて持ち帰る形で継続している。

ここの特徴は高齢者の利用が多いことであり、特に外出を抑制しているコロナ禍では常連同士の顔合わせの場として安心感を与え、その日に来ない人がいると「忘れていたのではないか」と電話したりして一つのつながりを維持している。民生委員は、高齢者で取りに来られない人の自宅には配達している。

また、子どもや親子連れで受け取りにくる場合は、ほとんどが母子家庭ということである。子ども3人の家庭では大きなタッパーウェアを抱えて子どもが受け取りにくるが、その家庭にはたっぷりの量のご飯やおかずを入れて配慮している。また、フードバンクくるめでもらったレトルト食品やお菓子などを弁当とともに持たせるだけでなく、午後からは主催者が訪問配布も行っている。

互いに顔の見える関係を大事にしており、団地を中心とする活動でもあるため生活状況も把握しやすく、困ったときには主催者にSOSを発信する家庭もあり、セーフティネットの機能もある。

3 考察と今後の計画

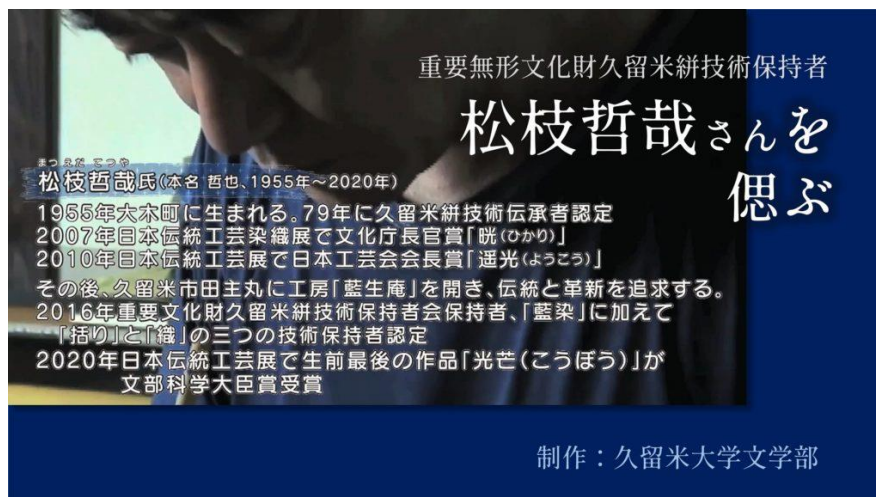
コロナ禍での子ども食堂活動から考察されることは、全国的な子ども食堂の調査報告でも指摘されているが、1) 弁当や食材配布による個別対応になったことで、それまで見えなかった困窮家庭の現状が顕在化した。2) コロナ禍で母子家庭の困窮度が増し、子ども食堂が多面的な支援の入り口にもなっている。3) 民間団体の即応力とネットワークが現代社会の課題解決につながっている。上記のように久留米市内でも活動を継続している子ども食堂の意義や福祉機能の重要性は増しており、今後も引き続き子ども食堂活動を通じた福祉コミュニティ形成を切り口として研究を継続していく予定である。

(6) 文化財保存科学研究部会

部会長 原口 雅浩

1. 座談会「松枝哲哉さんを偲ぶ」

久留米大学や久留米大学文学部、比較文化研究所文化財保存科学研究部会などの活動にご尽力いただいていた久留米絣作家の松枝哲哉さんが、2020年7月、食道がんのため64歳でご逝去されました。文学部の主催で2020年10月26日に座談会「松枝哲哉さんを偲ぶ」を開催し、参加者それぞれの松枝さんとの関わりや思い出を語り合いながら松枝さんを偲びました。その後、撮影した動画を過去の映像や写真とともに編集して、70分の映像作品にまとめました。DVDを作成するとともに、2021年3月3日に久留米大学の公式YouTubeチャンネル（URL：<https://www.youtube.com/watch?v=rMAzLyu994o>）にアップしました。文学部や比較文化研究所の文化財保存科学研究部会のWEBサイトにもリンクを貼っております。さらに、英語版とイタリア語版の字幕を付けたDVDも作成し、大英博物館・ビクトリアアルバート美術館、バチカン図書館、バチカン機密文書館、ローマ東洋美術館等に発送予定です。



2. 伝統工芸の国・筑後のパンフレット作成

久留米大学では、文化財保存科学研究部会を中心に、これまで筑後の伝統工芸の高度な技術を見つめなおし、国の内外へ紹介する活動をしています。本パンフレットは、そうした取り組みや、その過程で得たさまざまな知見を小文にまとめ、広く読んでいただこうとするものです。

- 第一号：伝統工芸の国・筑後 大庭卓也
八女提灯、全国へ発信 矢毛達之
第二号：柳宗悦と筑後の手仕事（一） 大庭卓也



3. 文化財保存科学研究部会のWEBサイト更新

文化財保存科学研究部会の活動に関する情報は、WEBサイトをご覧ください。
URL：<http://kurumbunkazai.jp/>

(7) 民事法研究部会

部会長 石川 真人

民事法研究部会は、2020年度は休部です。

(8) 地域社会経済研究部会

部会長 松石 達彦

1 経済学部地域経済社会研究所との共同研究

本プロジェクトは、松石、松下、大矢野が中心となって活動しており、予算の関係で、経済学部地域経済社会研究所（松石、葉山、畠中、大矢野）との共同研究も行っている。

本年度は、コロナの関係でインドネシアとマレーシアについての調査は無理であった。本来の大川市とマレーシア・サラワク州クチン市との交流を促進して、家具産業の現地進出や自然環境の再生問題について共同研究の下準備を進めている。

2 公開講座の実施

例年、各行政との連携協定に基づいて「うきは学」と「大川学」、「小郡学」を開催しているが、本年度は、「大川学」と「小郡学」の開催はコロナ対策のため中止となった。

(1) 「うきは学」の開催

「うきは学」は、久留米大学とうきは市の連携協定を背景として、うきは市の歴史と市民生活と題して、うきは市と邪馬台国の歴史、筑後川の民話、筑後平野と九州の民謡について講座を開催した。特に、邪馬台国論争については、地元の郷土史家福島正彦先生がうきは市こそが邪馬台国の位置であることを説明した。

うきは学	『うきはテロワール』と悠久の古代史	高木 典雄	うきは市長	11月7日(土)	14:00~15:30	うきは市民センター
	邪馬台国とうきは市-その1	福島 雅彦	古代史研究者	11月14日(土)	14:00~15:30	
	邪馬台国とうきは市-その2	福島 雅彦	古代史研究者	11月14日(土)	15:40~17:10	
	うきは市の古代-その2	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	11月21日(土)	14:00~15:30	
	うきは市の古代-その2	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月12日(土)	15:40~17:10	
	うきはの文化と地方創生	松下 愛	久留米大学 講師	11月28日(土)	14:00~15:30	
	有明海と九州の民謡	鐘ヶ江社中	日本民謡協会	12月5日(土)	14:00~15:30	
	有明海と九州の民謡	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月5日(土)	14:00~15:30	
	筑後川流域の民話	川野 恵美子	大川市議会 議長	12月12日(土)	14:00~15:30	

(2) 九州王朝論

古田武彦氏を始祖とする「九州王朝論」を「古田考古学」の後継者として文学部福山裕夫教授が担当している。また、これを受けて、久留米大学公開講座の代表的な古代史シリーズとして開催されている「九州王朝論」は、全国的にも有名な久留米大学の公開講座となっており、松下愛講師と大矢野栄次教授担当の「九州王朝論」を提供している。

第1回は、邪馬台国と神武天皇から欠史八代といわれる歴代天皇までの日本の古代史について『日本書紀』を題材としての研究と解説を行った。

第二回目は、景行天皇・日本武尊から仲哀天皇・神功皇后、そして、仁徳天皇と倭の五王との関係性について、九州王朝論の関係について『日本書紀』を題材として最近の研究成果を説明した。

第三回目は応神天皇とその後継者を自認する継体天皇・欽明天皇の流れが、肥後・豊後・豊前に広がることを『日本書紀』を題材として説明した。

邪馬台国と九州王朝論	徐福から邪馬台国まで	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	9月5日(土)	14:00~15:30	御井キャンパス 500号館51A教室
	邪馬台国1	福島 雅彦	古代史研究者	9月12日(土)	12:00~13:30	
	邪馬台国2	福島 雅彦	古代史研究者	9月12日(土)	14:00~15:30	
	神武天皇と邪馬台国	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	9月19日(土)	12:00~13:30	
	欠史八代と垂仁天皇	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	9月19日(土)	14:00~15:30	
九州王朝論 景行天皇 以後の神功皇后と筑後 王朝	景行天皇と倭タケル	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	10月3日(土)	14:00~15:30	御井キャンパス 500号館51A教室
	仲哀天皇と神功皇后	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	10月10日(土)	14:00~15:30	
	神功皇后と武内宿禰	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	10月17日(土)	14:00~15:30	
	仁徳天皇と倭の五王	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	10月24日(土)	14:00~15:30	
九州王朝論 継体天 皇・聖德太子以後の九 州王朝論	瓊瓊杵尊と饒速日尊の意味	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	10月31日(土)	14:00~15:30	御井キャンパス 500号館51A教室
	継体天皇と磐井の乱	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月12日(土)	12:00~13:30	
	欽明天皇と用明天皇	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月12日(土)	14:00~15:30	
	聖德太子と推古天皇	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月19日(土)	12:00~13:30	
	天智天皇と白村江の戦い	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月19日(土)	14:00~15:30	
天武天皇と壬申の乱	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月26日(土)	14:00~15:30		

(3) 九州(豊前・豊後)の歴史と観光

大分の元教育委員会の古代史の専門家である高橋徹先生と元時事通信大分支局長柿本薫氏をゲストスピーカーに迎えて、松下愛講師と大矢野栄次教授を中心に大分県の観光と歴史(古代史)についての講演会を開催した。

九州(豊前・豊後)の 歴史と観光	地方の文化と地方創生	松下 愛	久留米大学 講師	10月4日(日)	13:30~15:00	福岡サテライト
	歴史と九州観光	柿元 薫	比較文化研究所 特別研究員	10月25日(日)	13:30~15:00	
	大分の古代1-臼杵石仏と大分の古墳群	高橋 徹	元大分県立歴史博物館 館長	11月29日(日)	13:30~15:00	
	大分県の古代2-宇佐神宮と国東半島	高橋 徹	元大分県立歴史博物館 館長	12月27日(日)	13:30~15:00	
	用明天皇の萬弘寺とその周辺についての古代史考察	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月27日(日)	15:30~17:00	
	宇佐神宮と弥勒寺とその周辺についての古代史考察	大矢野 栄次	久留米大学経済学部 教授	12月27日(日)	17:00~18:30	

3 佐賀低平地研究会地域創生専門部会との共同開催プロジェクト(大矢野栄次・松下愛)

(1) 勉強会「筑後川と有明海の交易の歴史」

佐賀低平地研究会地域創生部会との共同研究では、有明海の歴史と経済についての研究が本年度のテーマであった。この本年度の勉強会の成果として「神武天皇と欠史八代-有明海と玄界灘の物語」、「垂仁天皇・景行天皇・日本武尊から仲哀天皇・神功皇后り戦い毛人・蝦夷の侵入とその統合の歴史-」の2冊子を発行した。

4 物流新幹線構想

佐賀低平地研究会地域創生部会と当研究会の共同研究として、物流新幹線構想の研究を行っている。本年度は、佐賀県議会と「肥前殖産の会」、また、長崎県議会費関係者からの依頼で「物流新幹線構想と長崎新幹線」という題目で物流新幹線構想の佐賀ルートの在り方についての講演会を行った。

居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員の役割における現状と課題に関する研究
(辻丸秀策・三橋優介)

居宅介護支援事業所の管理者である主任介護支援専門員に対して実施したアンケート調査データのうち、自由記述項目に対するテキストマイニングを行い、主任介護支援専門員の役割における現状と課題を探索的に検討した。分析の結果、事業所内・事業所外での事例検討会を通じた介護支援専門員への支援、事業所内の事例検討会や会議による情報共有の重要性が示された。その一方、眼前の業務や地域の活動、感染対策等への対応に追われ、意識的な自己分析による知識や技術の習得等の能力開発に関する課題が示された。

本研究は、比較文化研究に投稿中である。

小中学生の QOL と問題行動 (SDQ) に関する研究 (池田博章)

小学4年生～中学3年生を対象に、QOLと問題行動との関連性を分析し、子どもの自殺予防に寄与する方策について考察を行った。結論として、「子どものQOLを向上させること」と「子どもの問題行動のリスクを低下させること」は相関しており、それぞれが「子どもの生きることの阻害要因を減らし、生きることの促進要因を増やすこと」につながる。

また、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの視点で、子どもの困難な状況を捉えて、それぞれを専門領域とする自殺対策に係る人材の確保及び養成をするとともに、「各専門職による多領域との協働」を行うにあたっては「保護者・学校・地域等と連携」した上で、自殺予防を含む生きるための包括的な支援を行うことが望ましい。そして、その包括的な支援は、自殺者数が急増する学校の長期休校明け前後を含めた通年で行われる必要がある。

池田博章 (2021). 中学生における QOL と内面化・外面化問題行動 (SDQ) の縦断的研究

比較文化研究 57, 31-48

本研究は、博士論文として取りまとめる予定である。

第 51 回「協同教育研究会」(安永 悟)

2021 年 2 月 27 日(土)に第 51 回「協同教育研究会」をオンラインにて開催した。

日 時：2021 年 2 月 27 日(土)13:40～17:00

会 場：zoom を利用したオンライン開催

テーマ：「協同教育」

定 員：なし

参加費：無料

主 催：安永悟研究室(協同教育研究所「結風」)

後 援：久留米大学比較文化研究所

公 認：初年次教育学会(実践交流会)、日本協同教育学会(九州支部研究会)、全国個集研(久留米地区研究会)

プログラム：

- | | |
|---|-------------|
| ○事前オープン | 13:40～14:00 |
| (1) 挨拶・導入：安永悟・久留米大学 | 14:00～14:20 |
| (2) 講演：須藤文・久留米大学 | 14:20～15:20 |
| 演題：授業通信を通して考える初回授業の大切さ | |
| (3) 講演：水野正朗・東海学園大学 | 15:30～16:30 |
| 演題：高等学校国語科において求められる資質・
能力を育むための授業づくり | |
| (4) 連絡・閉会：安永悟 | 16:30～16:35 |
| ○オンライン情報交換会 | 16:35～17:00 |

総 括

今回の事前登録者は 52 名でした。zoom 開催に変わってから、これまで以上に、全国各地から、高等教育関係者を中心に、参加者が増えてきました。それに伴って参加者の所属と専門はさらに多様化しています。当日の参加人数は、途中での出入りがありましたので、明確ではありませんが、瞬間最大数は 41 名でした。また、情報交換会にも多くの皆さんが参加されました。

須藤先生による講演は、教職課程の道徳授業で実際に使った「授業通信」を課題文として、各自の授業と関連づけを行い、グループごとに交流するという内容でした。水野先生の講演では「ジーンズ」という詩をグループで読み解く作業を通して、高等学校国語科で実践されている授業づくりの実際を知ることができました。両方とも、これまでの実践に裏打ちされた内容であり、各自の授業づくりに大変参考になる講演でした。

なお、Web 授業における協同学習の実践方法についての意見交換もなされ、充実した時間を過ごすことができました。

研究目的

会計専門職研究部会は、会計専門職(公認会計士・税理士)の実態と制度に関する研究を目的としている。

主な研究対象として、大手3大監査法人、EY 新日本有限責任監査法人、有限責任監査法人トーマツ、有限責任あずさ監査法人を取り上げ、福岡オフィスへの訪問、本学学生を引率しての体験学習の実施、シニアマネジャーやパートナーなど幹部クラスの公認会計士との意見交換等を行なっている。さらに、日本公認会計士協会北部九州会の役員(会長・副会長)との意見交換や情報共有を行なうことにより、地元経済や企業の動向を明らかにすることができる。

また、九州北部税理士会との関係強化を図り、租税教育推進部委員としての税理士との意見交換や実態調査を行なっている。北部九州における中小企業の経営実態や動向を明らかにすることができる。

2020 年度の活動内容

新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度のような十分な活動ができなかった。

① 監査法人(公認会計士オフィス)への体験学習プログラム実施

実施日：2020年9月14日(月)

実施場所については、有限責任監査法人トーマツからの申し出により、久留米大学御井学舎において実施した。

対応公認会計士：渡邊 祥久 先生

林田 俊介 先生

内容：本学学生の体験学習(担当者説明、DVD教材、経営分析・企業診断の事例研究、公認会計士試験合格者による体験談、質疑応答、アンケート記入、等)

② 監査法人(公認会計士オフィス)への体験学習プログラム実施

実施日：2020年9月18日(金)：有限責任あずさ監査法人(福岡市天神オフィス)

対応公認会計士：堤 将人 先生(福岡事務所マネジャー)

樋口 洸太 先生

ほか、若手公認会計士数名

内容：本学学生の体験学習(担当者説明、DVD教材、オフィス内見学、経営分析・企業診断の事例研究、公認会計士試験合格者による体験談、質疑応答、アンケート記入、等)

③ 研究資料の執筆：

杉野博貴「大学におけるビジネス教育の実践事例」(『久留米大学 商学研究』2021年3月、第26巻第1・2号合併号、27-48頁)。

2012年度～2019年度、久留米大学比較文化研究所(会計専門職研究部会)による研究助成を受けていることを明記している。

有限責任監査法人トーマツによる体験学習の様子(2020年9月14日)



有限責任あずさ監査法人(福岡市天神オフィス)での体験学習の様子(2020年9月18日)



(12) 日本アジア比較文化研部会報告

部会長 アハマド・ラハミー

2020年度は、2020年3月7日・8日にエジプト・カイロ大学で、本学とカイロ大学日本語日本文学科共催で開催された国際シンポジウム「非西欧社会の近代化再考：エジプト（アラブ）と日本（東アジア）の場合Ⅱ」の報告集として、久留米大学比較文化研究所紀要『比較文化研究』第56集をカイロ大学との共編で2020年11月に発行しました。目次は以下のとおりです（浦田 義和）。

1. 挨拶

「本論文集発行にあたって」内村直尚（久留米大学学長）

2. 特別寄稿

「日本の近代化と不易流行」Susumu Nakanishi（国際日本文化研究センター）

「近代化の再考」Katsuhiko Tanaka（一橋大学）

「極東日本の近代化」Kaoru Iokibe（東京大学）

「折形一和紙の文化についての一考察」Midori Fukuda（折形講師・神道文化研究）

3. 論考

「国語改革・国語表記運動の言語。社会・政治的な自我同一性への影響」Adel Amin Saleh（カイロ大学）

「日本の近代化とそのイラクにおける影響」Isam Abdulghfoor（イラク大学）

「日本近代主義の経験とスーダンにおける教訓」Muna Abbas Mahmoud Saad（カルトゥーン大学）

「安岡章太郎の『ガラスの靴』・『ハウス・ガード』、池田聡の『ガード』」Ahmad Fathi（久留米大学）

「中国の近代化と日本からの影響」Ahmad Soliman（エジプトテレビコメンテーター）

「ナフダ VS 維新：19世紀におけるアラブ復興の失敗と日本復興の成功」

Habib Albbadawi（レバノン大学）

「日本における国語教育改革と人材育成」Kyoko Hayashi（文部科学省）

「日本企業に求める外国人ビジネス関係者の雇用環境と日本語使用について」Taeko Iso（山野美容学校）

「稲垣足穂と御伽草子稚児物」Shingo Ito（国際日本文化研究センター）

「日本語教育と協同学習」Yoshinori Iwata（久留米大学）

『『日蔵夢記』の時と場所』Makoto Kikuchi（カイロ大学）

「日本近代女子教育 与謝野晶子の場合」Yuko Koshimizu（秋草学園短期大学）

「埃及の漢字表記を巡って」Hiroyuki Niwa（大手前大学）

「日本とエジプトにおける女子教育改革の一考察—津田梅子とナバウエーヤ」Safaa Noor（カイロ大学）

「理想の短期日本語プログラムはあるのか？」Yukari Saiki（東海大学）

「西行から芭蕉へ」Kako Takagi（昭和女子短期大学）

「三島由紀夫の語彙の再評価」Masaaki Taniguchi（静岡産業大学）

「エジプトと日本間の信頼できる近代主義」Yomna T. Elkholy（カイロ大学）

「オリエンタリズムとアジア主義」Yoshikazu Urata（久留米大学）

4. 若手研究者

「日本語の受動文とそのアラビア語訳」Elmontaserbellah Mohamed ALI（久留米大学大学院）

「アラブ現代詩と日本現代詩の比較」Ghada Abdelkareem EMAM（久留米大学大学院）

「意味論から見るアラビア語から日本語への翻訳における副詞語訳出の分析」

Heba HASSAN（カイロ大学助教）

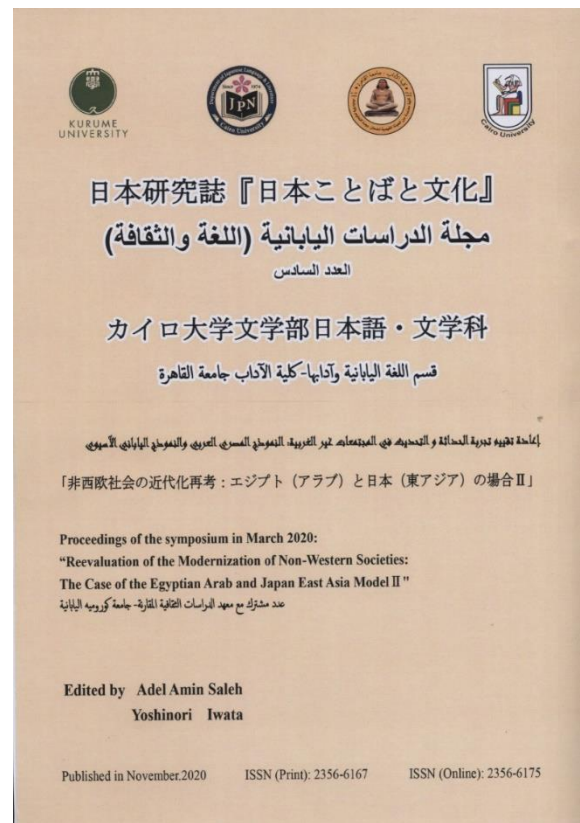
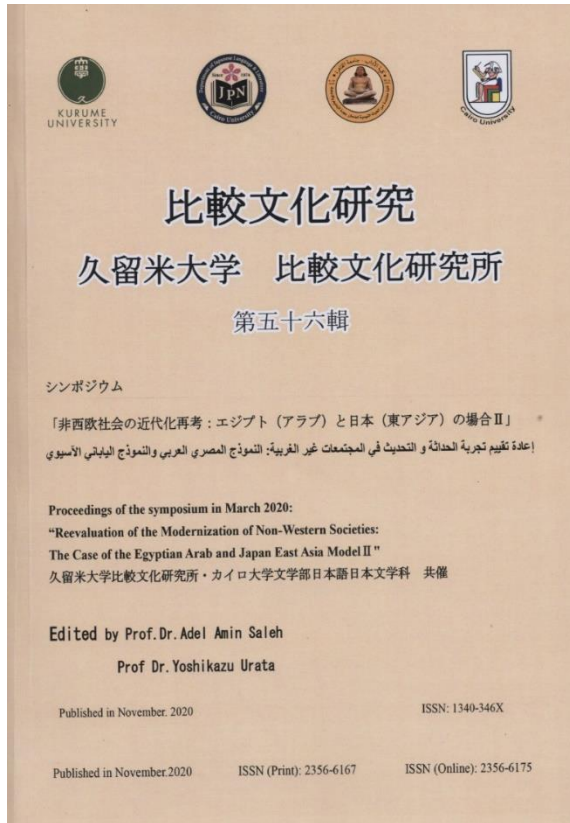
「アラビア語を母語とするエジプト人日本語学習者における受け身文の獲得」

Nihal ALI (カイロ大学助教)

『『小倉百人一首』女歌の考察』 Nurhan AMIN (カイロ大学大学院)

『日本のビジネス・カルチャーを考える』 Sara Hesham (同志社大学大学院)

『日本戦後文学におけるアメリカ人像』 Waffa AHMED (カイロ大学助教)



(13) 歴史科学部会

部会長 福山 裕夫

はじめに

2021年度は、世界的なコロナ感染の影響もあり、後援会活動及びフィールドワークにおいては、衛生上の観点から企画、実施に至りませんでした。その中においても、幸いなことに本学地域生活支援センターにおける公開講座は、いくつか行うことができました。また、共同研究者である古田史学の会においては、昨今の知見を加味して下記の出版に至っています。コロナ禍における研究者間の研鑽のツールとして、SNSを用いた活動も盛んになっております。共同研究者の内倉氏（元朝日新聞）はインターラクティブな動画を配信し、参加者と交流を図っておられます。福山においても、WPA（世界精神医学会）のTranscultural Psychiatryに関する部会や国立民俗研のSNS規格に参加しましたが、今後はこのようなメソッドを用いたさらなる大容量のインアクティブな研究活動がポストコロナの主流になってくるものと思われまます。一方で、フィールドワークや現在のインターネット媒体になることがなかなか難しい資料も存在し、地域と共同しそれをどうアーカイブにしていくのかも重要です。

下記に、今期の公開講座と古田史学の会の著作物（講演会は中止になりましたが）について、簡単に紹介します。

1 郷土の古代民族学 Sep. 2020

弥生の新年代と箕子朝鮮 福山 裕夫

今こそ卑弥呼の死と狗奴国の鉄を語ろう 吉田 正一 久米八幡宮・宮司

星の民俗学 一卑弥呼の日食を中心に一 福山 裕夫

「杵島山と筑波山」風土記と万葉集から見える常陸の国 伊藤 まさ子

2 九州王朝論 2020-令和記念（中止）

3 九州王朝（弥生編） 福山裕夫

「日本書紀」に息づく九州王朝令和二年の日本紀講筈(にほんぎこうえん) 古賀 達也

筑後の古代遺跡から 福山裕夫

継体と「磐井の乱」の真実 正木 裕 大阪府立大学講師

4 邪馬台国と九州王朝論 Sep. 2020

徐福から邪馬台国まで 大矢野 栄次

邪馬台国1 福島 雅彦 古代史研究家

邪馬台国2 福島 雅彦 古代史研究家

神武天皇と邪馬台国 大矢野 栄次

欠史八代と垂仁天皇 大矢野 栄次

5 九州王朝論 景行天皇 以後の神功皇后と筑後王朝 Sep. 2020

景行天皇と倭タケル

仲哀天皇と神功皇后

神功皇后と武内宿禰

仁徳天皇と倭の五王

瓊瓊杵尊と饒速日尊の意味（以上 大矢野 栄次）

6 九州王朝論 継体天皇・聖徳太子以後の九州王朝論

継体天皇と磐井の乱
欽明天皇と用明天皇
聖徳太子と推古天皇
天智天皇と白村江の戦い
天武天皇と壬申の乱 (以上 大矢野 栄次)

7 倭弥呼(ひみか)と邪馬壹国(やまいこく)

—古田武彦『「邪馬台国」はなかった』発刊五十周年
(古代に真実を求めて 古田史学論集第二十四集) ISBN 13 978-4750351810

古田武彦『「邪馬台国」はなかった』の刊行から50年をへて、「邪馬壹国説」「短里説」「博多湾岸説」「二倍年暦説」「倭人が太平洋を渡った説」などの諸仮説をめぐる最新の研究成果について、複数の執筆者による著作集です。「『海賦』読解の衝撃」「長沙走馬楼呉簡の研究—「都市」は官職名—」「ふみ国の所在地を考察する—弥生の硯出土の論理性—」「箸墓古墳出土物の炭素14測定値の恣意的解釈」「曹操墓と日田市から出土した金銀象嵌鏡」など、今後も古代史ファンにわかりやすく発信していきたい内容となっています。

以上、2020年の報告ですが、2021年度は資料のデジタル化などを加えて、取り組んでいく予定です。特に、歴史民俗学的に精神医学とも関係の深い地方の神楽、その他の伝統芸能がコロナ禍で中止、延期、もしくは伝承の途絶が相次いでおり、資料化が早急に求められていることを記しておきます。

(14) 筑後川流域圏研究部会

部会長 浅見良露

筑後川流域圏研究部会は、筑後川流域圏を対象として、多方面から研究を行う事を目的としている。2006年度から2015年度は、比較文化研究所のプロジェクト研究として、下流域から上流域までの地域研究を行い、2016年度に研究部会として再発足してからは、流域圏の一部または全体について、メンバー各自によるテーマ別の研究を行っている。さらに、2019年度に「古賀河川図書館」の全蔵書が久留米大学御井図書館に寄贈されるにあたって、その活用を考える研究会をスタートさせた。

2020年度においては、古賀河川図書館の利活用を考えるシンポジウムを開催、また、2件のテーマ別研究が行われた。

1. 古賀河川図書館の利活用に関する研究（土肥勲嗣）

(1) 久留米大学御井図書館「古賀邦雄河川文庫」開設記念シンポジウム開催

2020年11月29日（日）、久留米大学御井キャンパスにて、「古賀邦雄河川文庫」開設記念シンポジウム「中村哲先生の河川哲学を学ぶ集い」を開催し、約130人の参加があった。このシンポジウムは、久留米市在住の古賀邦雄さんがおよそ50年間に収集した河川に関する約1万2千冊の蔵書を本学に寄贈され、「古賀邦雄河川文庫」として御井図書館に開設されたことを記念して開催された。

古賀さんは、水資源開発公団（現独立行政法人水資源機構）入社後、約50年間にわたり水・河川・湖沼関係の文献を収集、それらを所蔵する「古賀河川図書館」を2008年5月に開設された。蔵書には、全国の大学図書館や国立国会図書館にない貴重な資料も多く、2019年9月に本学に寄贈されて以降、現時点で約3200冊が「古賀邦雄河川文庫」として配架されており、2022年度までには全ての書籍が整理される予定である。シンポジウムに先立ち、本学から古賀さんに感謝状が贈呈された。



シンポジウムでは、ペシャワール会としてアフガニスタンの灌漑事業にご尽力された中村哲医師の河川づくりのルーツとされている福岡県朝倉市にある筑後川「山田堰」の話から、アフガニスタンで実際に取り組まれた水利開発システム、さらにはペシャワール会の理事として現地で共に事業を進められた徳永氏による中村医師のアフガニスタン復興支援の軌跡をたどる講話が行われ、多くの参加者が中村哲医師の功績をしのんだ。

基調講演「中村哲先生の筑後川山田堰の検証について」国土交通省筑後川河川事務所所長 松木 洋忠 氏

基調講演「中村哲先生のアフガニスタンにおける水利開発システムに学ぶ」九州大学大学院教授 島谷 幸宏 氏

話題提供「中村哲医師・アフガニスタン復興ゼロからの出発」ペシャワール会理事 徳永 哲也 氏

第2部の座談会「中村哲先生の河川哲学の業績として未来へむけて」では、会場から多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがわれた。

なお、古賀邦雄さんは、久留米大学比較文化研究所筑後川流域圏部会の研究協力者に就任された。



(2) 古賀邦雄河川資料の活用を考える研究会

2020年11月11日（水）午後5時から 教員休憩室 出席者 浅見、伊佐、葉山、土肥
古賀邦雄河川文庫開設記念シンポジウムの打ち合わせについて

2. テーマ別研究

(1) 北原白秋と小笠原島（浦田義和）

これまで筆者は、白秋と天草、白秋と台湾について、その作品分析を通して、その特徴を次のように捉えてきた。1907（明治40）年の「天草雅歌」は、対象が主に少女で、青年詩人の抒情的でロマンチックな心性が歌われているのに対し、1934（昭和9）年の「台湾紀行」では、主に対象が少年になり、勇ましい意気込みの歌に変化した。

今回は、両者と共通する“島”、“南国”の小笠原島について書かれた作品を取り上げた。白秋は、1910（明治43）年いわゆる人妻との姦通事件で下獄し、社会からの指弾を恐れ、またその傷を癒すために、1914（大正3）年2月、二人で小笠原島に渡り、7月まで、当地に滞在した。その体験をもとにして「小笠原の夏」（『文章世界』1918年）と「小笠原島夜話」（『文章世界』1919年）が発表された。

いずれもエッセイだが、「小笠原の夏」は、紀行文で、南島のもの珍しいエキゾチックな景物への感激が次のように表現されている。

○花ばかりだと云ふが、高さが一間の余もある。鳳梨を何百と積み重ねたやうな茶褐色の花だ。それを黒ん坊の婆や真黄色い日本の娘や白人の漁師共が掌を合はせるやうにして蹲踞んで覗き込んでゐる。

○海の色は麗らかさ、それは何とも云へぬ澄み亘った瑠璃色だ。濃厚で豊麗で光輝に満ちてゐる。裸の子供どもが二三人泳いでゐたが、その肉体が鮮やかな紅色になって見える。こんなに美しい人間の肉体を見た事は無い。

一方、「小笠原島夜話」は、島の歴史の略述から始め、後半は、自分たちの島での苦しい体験が表現されている。

○『聞いて極楽、見て地獄』と申しますが、決してああいふ離れ島などに内地の人が、永く住めるものではありません。

○新米の内地人に向かつては、その初め好奇と憧憬を寄せてゐた心が。間もなく理由のない敵意となり反感となり嫉妬となり憎悪となり迫害的に推移して来るのも、一種の島人根性です。

このように「小笠原の夏」のロマンチズムから一転しての「小笠原島夜話」のリアリズムへと、双方が描き分けられているが、「夜話」のリアリズムは、開き直って都会で表現を通しての戦いの道を歩ませ、「夏」の少年讃歌は、以後の童謡・童話制作への意欲を醸成したとまとめられよう。

付記 引用文中、不適切な表現があるが、歴史的文献としてそのまま引用している。

(2) eスポーツによる筑後川流域（うきは市、大川市、小郡市等）への提案（松下愛）

筑後川流域圏の地方創生計画の1つの案として、「eスポーツの利活用と地域開発」について考察した。具体的には、計三回程度「eスポーツ勉強会」を開催して、具体的な政策の提案方法を検討した。勉強会には、福岡eスポーツ協会会長の中島賢一氏をはじめいろいろな関係者を招聘して具体的なメリット・デメリット等について勉強会を開催した。

①準備会議の内容

この会議において、考察した内容は以下のようなものである。

- ・eスポーツ≠ゲームに対する理解
- ・核となる人材の養成の必要性
- ・対象年齢層・ターゲットの問題
- ・ゲームの種類と選択の問題
- ・実施する際の場所の選定
- ・イベント中の運営スタッフ、解説、ゲームの指導者
- ・企業の協賛やスポンサー、地元の協力
- ・ゲームコミュニティ作り etc.

②三市への政策提言

具体的には、下流域の大川市、中流域の小郡市、上流域のうきは市の3つの市に、eスポーツ関連のプロジェクトを以下のように提案する計画を用意した。

a) 市内の古民家利用案

いくつかの古民家にwi-fi機能を備えて、古民家の再利用方法の一つとして、家族でeスポーツというテーマで、市外からの短期的な訪問者を誘致すること。

b) 市内のアリーナの利活用

市内のアリーナ等の施設を利用して、市内の中学生高校生のeスポーツによる地域間連携の場とすることによって、若者のコミュニケーション能力を高め、活性化を図ること。

若者と高齢者の交流の場を構築する。

c) 温泉センターへの誘致

市内の遊休施設の利活用として、例えば温泉施設などにeスポーツの施設を誘致して、長期的な観光客の誘致を図ること。

d) eスポーツ学習型連携

幼稚園、小中高生、大学生、商工関係、シニア世代へのeスポーツの機会をつくり、久留米大学との連携協定に基づき筑後川流域における各市での連携を図ること。いずれは、地域と世代を超えた連携まで図ること。

(15) イスラーム研究部会

部会長 佐々木 拓雄

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大にともなう活動の制限により、予定していたフィールドワークやシンポジウム等の催しを実行できなかった。前年度から始めた九州在住ムスリムの生活をめぐるインドネシア人研究者との共同調査も中断した。中止・中断した活動の代替として行ったことがいくつかあるので、その一部を紹介したい。

佐々木は、活動予算の一部を用いて、イスラーム社会におけるジェンダーの問題をテーマとした映像資料を収集した。国際的にはあまり知られていないが、近年のインドネシアでは女性を戦うヒロインとする「ヒーローもの」映画が人気を博している。映画大国イランでもジェンダーへの問題意識を表す作品がいくつも作られてきたし、保守的な国として知られるサウジアラビアでも女性監督が生まれ、限定的ながら表現の機会を得るなどの動きがある。収集した資料の多くは、鑑賞会の教材としても適しており、いずれそのような活用場を設けることを考えている。

浦田義和は、イスラーム墓地の訪問やイスラーム研究者・須田正継に関する資料の収集などを行った。以下は浦田の報告文である。

「日本国内に数か所しかないイスラーム墓地のうち、著名な、山梨県甲府市の文殊院を訪ねた。甲府駅から中央本線高尾行で20数分の塩山駅で下車し、そこから歩いて、小高いぶどう畑の丘の一角にある仏教のお寺に、墓地があった。土葬なので、細長い区画に、一人一人の墓標（それほど大きくない）があって、姓名と没年がアルファベットまたはアラビア文字（と思われる）で刻んであった。日本人と思われるのも見られた。

次に、図書館を訪ね、山梨出身のイスラーム教研究者・須田正継に関する資料を閲覧した。その結果、須田は、1893年生まれで東京外国語学校ロシア語部を終了。大正時代、外務省嘱託として帝政ロシアに留学、その後、シベリアで日本軍の通訳官、満鉄調査部やハルピン特務機関補佐官などを務めた。この間、中央アジアの調査に赴き、回教研究を進め、コーラン出版や代々木の礼拝堂設立にも関わったとされていることなどが、確認できた。須田研究は、須田の職務の特殊性から、伝記研究などほとんど進んでなくて、これからの課題であろう」。

2020 年度はコロナ禍で海外の研究者の招聘も海外への渡航もできず、活動が大幅に制限されたが、部会内での共同研究の可能性を探るため、12 月 15 日 (12:25-15:00) に研究会を開催した。発表はいずれも異文化との邂逅から生じるアイデンティティや文化表象に関連するものであり、これを共通テーマとして共同研究を進めることに一応の合意がみられた。以下は各発表の要旨である。

1 畠中昌教 「ワイン、持続可能性、景観：近年の研究の経過報告」

本研究はワインツーリズムの空間的展開と地域への影響を経済・社会・環境の側面から検討する。今回の報告は研究の途中経過の報告である。ワインツーリズムを対象とするのは、ワインツーリズムが比較的最近盛んになった活動であり研究も十分ではないものの、ツーリズムによる地域の持続性を考える上で多くの示唆を与えるからである。対象地域は、スペインのワイン生産地域である DOC リオハ、DO シガレス、DOP カングスの3つである。

各種資料や先行研究によれば、スペインのワインツーリズムは、様々な上位ネットワークと接点がある。個別事例としてワインツーリズムにあたるものは 20 世紀からみられたものの、制度として確立するのは 2000 年代にスペイン・ワインルートが運営されてからであり、2010 年年代から継続した成長がみられた。

次に、DOC リオハに含まれる3つのワインルート、DO シガレスの1つのワインルート、DOP カングスのワインツーリズム活動の合計5ヶ所でワインツーリズムにおける持続可能性への取り組みについて調査した結果、ワインツーリズムが定着しているリオハ・アラベサ・ワインルートは Biosphere Responsible Tourism という認証制度を導入しているものの、他では持続可能性に関する取り組みは実施されていなかった。

また、DOC リオハに関しては1つのワイン生産地域の中に3つのワインルートが存在しているが、これはスペイン・ワインルートの中でも例外的な存在である。この点に関してはワインの生産地域であるDOCの範囲と、ツーリズムや環境政策の権限を有する自治州の境界がずれていることに加えて、自治州によって政治や文化に違いがあることも理由と考えられる。

リオハワインを資源とするツーリズムは、地域内部で協調と対立をはらみつつ、複雑に入り組んでいるのである。

2 神本秀爾 「共同研究に向けての整理と今後の展望」

本報告の主眼は 2021 年度以降の共同研究に向けて、過去の研究歴を紹介し若干の展望を述べることである。報告者はこれまでに文化人類学的立場から①ジャマイカ及び日本のラスタファーマイ、②ジャマイカ黒人のスキン・ブリーチング (薬品を用いた肌の脱色)、③日本列島のドメスティック・タトゥー創造プロジェクト、④ ジャマイカ都市部における葬送について研究を進めてきた。また、これまでに主に筑後地方を主題とした楽曲・映像制作を人類学的実践としても進めてきている。①～③の研究に通底しているのはローカリティと身体の関係であり、特に身体をメディアとしたローカリティ表象の想像／創造実践について論じてきているが、その視点は地中海とどのように接続が可能なのだろうか。

地中海はまずもって海で結ばれた地域である。ジャマイカをフィールドとする報告者にとって海とは、大西洋奴隷貿易で運ばれた者、残された者たちの脱領域的なアイデンティティを論じたポール・ギルロイの「黒い大西洋」の議論を想起させる空間である。ギルロイはかつて、「領土＝歴史＝アイデンティティ」といったフィクショナルな等式を無批判に受け入れられる幸福な人々が耳を傾けてこなかった、上記の等式から排除される人々の歴史や、彼らのアイデンティティをめぐる想像力について論じた。アフリカ人らしい宗教的信念や衣食住実践を想像／創造したラスタファーマイはそのようなひとつである。

上記のフィクショナルな等式は日本でも強い支持を得ているが、そのような日本において地中海地

域の国々や島々はどのようにまなざされ、消費され、新たな想像力を喚起しているのだろうか。本報告では、志摩スペイン村（テーマパーク・三重）やヴィラ・サントリーニ（ホテル・高知）などの具体的な施設を事例に、日本における地中海表象を分析することの意義や可能性などを示唆した。

3 浦田義和 「日本近代文学とイスラーム」

表題について、研究発表を以下の内容で実施した。

最初に取り上げる作品は、東海散士「佳人之奇遇」である。元会津藩士の散士は、会津戦争に敗れた後、西南戦争に新政府軍として参加、功績が認められ、米国に留学。その折の見聞をもとにして世界の被植民地の苦境を訴える書を刊行した。その中で、英国から圧迫されているエジプトの悲史について訴えた。1880年代から90年代にかけてである。次に、20世紀に入ると、クリスチャンの徳富蘆花は1906年ロシアのトルストイ訪問途中にエジプトを通り、帰国後「埃及瞥見」を書き、“立上れ埃及”と檄を飛ばした。これらは明治の文学者だが、イスラム言説で目立つのは、いわゆるアジア主義者たちである。それはロシア・ソ連の南下を恐れて、“防共回廊”を構想し、そのために回教（イスラム）民族を取りこもうとした政治的意図であった。その代表的思想家は大川周明である。大川はコーランを日本語に翻訳したり、1943年には『回教概論』を出すなど、イスラム研究に功績がある。

2. 比較文化研究所 研究員発表会（2020年度）

例年、研究員による研究発表会を年に1回開催しておりましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、研究報告書の提出をもって発表に代えることといたしました。

	研究員氏名	タイトル
1	今村 義臣	地域在住の高齢者における来世信念と脳形態画像解析 －相関分析による縦断的検討－
2	陳 宥蓉	インドネシアにおける再生可能エネルギーへの転換に ついての考察
3	阿 思根	S型湾農牧業発展における影響要素分析とその対策
4	赤須 大典	集団成員からの肯定的評価の実感が及ぼす集団成員への 同一視と自己高揚への影響
5	篠倉 大樹	近世の水害における久留米藩への石高被害の算出
6	高木 恵	律令期の国府・国分寺の立地に関する一考察 －自然災害（歴史地震）の痕跡をもとに－
7	天満 翔	象徴機能から見た自閉スペクトラム症のロールシャッハ 反応
8	吉良 晴子	事例研究報告：小児がん患者・家族への心理的援助とスピリチュ アルケア
9	藤原 綾子	地域の脱炭素化に向けた地方公共団体の実行計画制度等に係 る現状と課題－再生可能エネルギーの導入の観点から－
10	若杉 優貴	書店チェーンの経営破綻が大型商業施設に与えた影響 －国内の大都市近郊に立地していた中堅 2 社の店舗を事例と して－
11	池田 博章	中学生における QOL と内面化・外面化問題行動（SDQ）の 縦断的研究
12	田中 京子	語りの中で生じる自伝的推論と高齢者の適応
13	城戸 由香里	認知症介護の看取りにおける皮膚刺激の活用 －皮膚刺激を行う職員の態度・感想・展望の要因－
14	増田 奈央子	ネガティブ感情が注意資源配分範囲に与える影響

15	丁 青	中国における自動車企業の環境マーケティング・コミュニケーション戦略の構築に関する研究－トヨタ自動車の事例研究として
16	中畑 義明	牛島謹爾に関する資料収集について
17	中尾 隆太	会計観と会計基準の関係に関する考察 －研究開発費会計に焦点をあてて－
18	呉 皖蘇	中国長江デルタと珠江デルタ主要部産業構造の変化と展望－ 人口と産業構造の関連より－
19	永吉 守	文化遺産としての行政建築をめぐる社会・文化的価値 －大牟田市庁舎の事例より－

3. 日誌（2020年度）

2020年（令和2年）

- 6月17日（水） 比較文化研究所運営会議（書面）
- 10月1日（木） 比較文化研究所運営会議（書面）
- 12月10日（木） 比較文化研究所運営会議（書面）

2021年（令和3年）

- 1月15日（金） 比較文化研究所運営会議（書面）
- 2月16日（火） 比較文化研究所会議
- 2月22日（月） 比較文化研究所運営会議（書面）
- 2月25日（木） 比較文化研究所協議会（書面）
- 3月23日（火） 比較文化研究所会議（書面）

※部会活動を除く

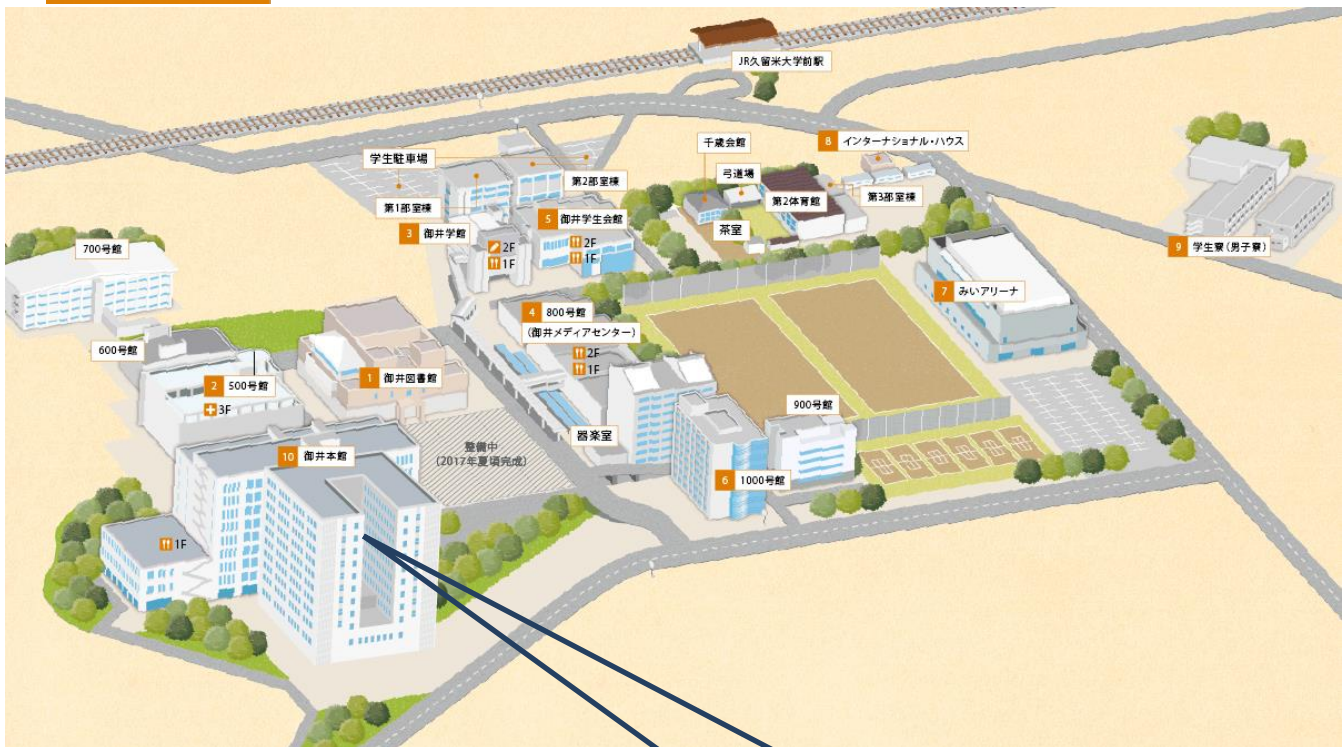
施設・設備

比較文化研究所は、1987年の設立当初は、旭町キャンパスの大学本館3階に設置されましたが、大学院比較文化研究科が開設された1989年に、旭町キャンパスから御井キャンパスに移りました。その後数回の移動を経た後、2015年3月に現在の御井本館8階に移動しています。研究所の部屋は3室あり、それぞれ研究所長室、会議・研究会用、および資料室・作業室として使用しています。

研究所の資料室には、紀元前3世紀に不老不死の薬を求めて渡来したとされる「徐福」に関する図書が保管されています。これは、元佐賀テレビ副社長内藤大典氏（故人）が収集された図書です。現在、図書の整理を進めているところであり、この方面の研究の発展に寄与するものと期待されます。

[案内図]

御井キャンパス



御井本館 8階
○比較文化研究所長室
○研究室
○共同研究室